

- ケーキの型抜き→大きな型抜き→鍋と順番に試したところ、鍋の高さで水が全部流れた。



1.三角ケーキの型抜き
ほとんどの水が戻ってくる



2.大きな型抜き
少し水が戻ってくる

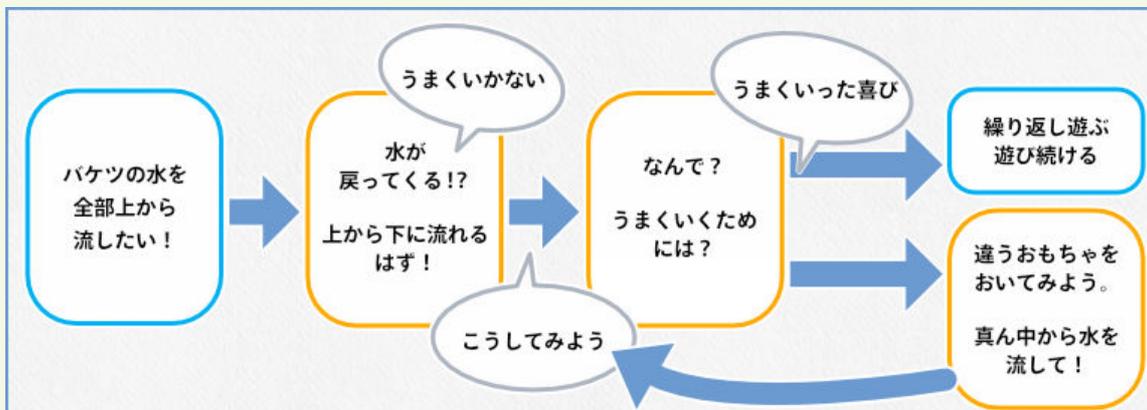


3.鍋
水がすべて流れる

- 3人は水が全て流れたことが嬉しくて、繰り返し水を流すことを楽しんだ。しかし、Eちゃんは、勢いよく大量の水を流すため、鍋で傾斜をつけた水路でも水が自分の方に戻ったり、水路が壊れてしまったりした。
- しばらく様子を見ていた保育者は、水が戻ってきてしまう要因にEちゃんが気づくことができるチャンスと考え、「Dちゃんは全部流れたね」「どうして、Eちゃんは水が戻ってきちゃうのかな?」と声をかけた。するとそれぞれが、友達の取り組みをよく見て、Dちゃんが“Eちゃんは水を雨樋の端から流していること”に気がついた。Dちゃんが原因を伝え、みんなで一緒に考えを出し合って解決した。



遊びの姿のプロセスの図式化



✦ 事例検討を通して

- 水が行く方向を予想したのに戻ってきてしまうという子どもの予想と違う出来事が起きたことが、自分たちで考えるきっかけになった。子どもが「どうして?」「なぜ?」に出合った時に、保育者がその状況を整理したり、思いに共感したりすることで、子どもは自分たちで問題を解消する方法を考えることができた。
- 子どもは、斜面に出合うことで流れることの面白さに気づき、主体的に人や物に関わって遊ぶ楽しさを感じている。斜面で繰り返し遊ぶ中で、子どもは「予想したことと違う不思議さ」を感じ、うまくいったり、いかなかったりすることを繰り返す中で試行錯誤を重ね、うまくいった喜びが達成感や満足感につながっていく。
- 保育者は、子どもが「予想したことと違う不思議さ」や「疑問」に出合った時に、すぐに正解を知らせたくなくなるが、正解を伝えることで、子どもは「もっと面白くしたい」「試したい」という気持ちがちにくくなる。さらには、うまくいった喜び、達成感、満足感につながりにくい。だからこそ、子どもが考えたり試したりしていることを共感的に受け止め、子どもと一緒にその不思議さを面白がる保育者であることが大切であることが分かった。
- “斜面の遊びって面白い”“仲間をつなげる不思議な力がある”という子どもの姿に保育者は、着目し事例検討を重ねてきた。

「子どもの発見や気づきに共感するってどういう事だろう」「環境を用意すれば子どもが考えたり試したりするのだろうか」「思わずやってみたくなる環境って何だろう」「遊びを楽しんでいくための環境ってどう構成するのか」などと、視点を明確にしたことで、活発な意見交換ができ、事例を深めることができた。

- 事例検討を中心にした研究を進める中で保育者の子どもの姿の読み取りが深まり、保育の振り返りが充実し、環境に対する考え方が共有できるようになってきた。そして「研究は大変だけど分かれると楽しい!」「保育者が考えて保育をすると子どもの反応が楽しみになる!」等の声が保育者間で聞こえてきていることが、この研究に取り組んだ大きな成果だと感じている。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」